

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 26 日

札幌市立 清田緑小学校

1 今年度の重点目標

『よりよい人間関係を築く力の育成』～気づき・考え・実行する～

2 本年度の経営方針

「学校力」の充実～信頼される学校づくり～  
 1.保護者との対話 2.安全・安心な学校 3.地域・関係機関との連携 4.学び合う教職員、協働精神で組織対応 5.業務改善、効率化

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	よりよい人間関係を築ける子	自己指導能力の育成	A	子どもが主体的に課題に挑戦したり、多様な他者と協働して創意工夫したりすることの重要性を実感できるような教育活動を展開する。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自主性を生かすため、教職員の研修など大変ですが、指導に力を入れてください。</li> <li>・子どもたちが自ら取り組むことができ、尚且、興味をもって活動できる工夫が感じられます。</li> </ul>				

人間尊重の教育	「自分が大切にされている」と実感できる取組の充実	たてわり活動（異学年交流）の推進	A	たてわり活動に向けて、職員研修を行い、どのような子どもの姿をめざすのか、そのために全職員でどのように支援をしていくのか共通理解を図る。	A	A
「学ぶ力」の育成	「学ぶ力育成プログラム」の推進	教師も子どもも「過程」を楽しみ、一緒に学びを充実させる授業の実現	B	子どもたち同士の関わりを大切に協働的な学びの質を高めるために、個の学びを充実させていく。個の学びの充実を図るための具体的な方法を研修や日々の授業を通して深めていく。	A	A
「豊かな心」の育成	共感的人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支持的創造的な学級づくり</li> <li>・学年学級、特別活動の充実</li> </ul>	A	教師主導ではなく、子どもが主体となって目標を立てたり活動を進めたりする。また、友達と協働して活動をつくりあげることのよさを子ども自身が感じることができるよう、教師の価値付けや振り返りの機会を大切にしている。	A	A
「健やかな体」の育成	「健やかな体」育成プログラムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育、保健体育等の授業の充実</li> <li>・子どもの運動機会を創出する取組</li> <li>・健康づくりを図る取組</li> </ul>	B	なわとび検定の取組を継続するとともに、委員会活動を中心とした子ども主体の活動を通して、全校の子どもたちが楽しみながら運動に親しむ機会を継続的に設定していく。	A	A
いじめ対策	いじめの早期発見・組織的な対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策委員会の実施</li> <li>・スクールカウンセラーによる授業</li> </ul>	A	いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの早期発見や対応、予防のための日々の取組について共有していく。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等、外部の方からアドバイスをいただいたり、研修をしていただいたりする機会を確保する。	A	A
一貫性・連続性のある教育（小中一貫した教育）	小中学校の子どもとの交流活動の充実及び教職員の連携の教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同あいさつ運動</li> <li>・小中の教職員による合同研修会</li> </ul>	B	年間3回の小中一貫した教育に関わる職員研修会を継続し、連携を深める。4月の札教研春の研究集会では、幼児教育施設の先生方にも参加していただき連携を図ることで、幼保小中の教職員が一体となり子どもを育てていく体制を構築する。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学びの場とのつながりの中から、子どもたちにとって必要なことなどを地域の人を含めて考えていけたら良いと思っています。</li> <li>・教職員の皆様のご努力で子どもたちを見守り育てる雰囲気強く感じています。学校、家庭、地域の力も取り入れて子どもたちを育てていきたいと思っています。</li> <li>・いじめ対策に関し、早期発見につながるストレスチェックなどの実施は、とても素晴らしく継続的に実施していただきたいと思います。</li> <li>・子どもたちが目標を理解し、学びの姿勢が自然と身に付いており、素晴らしいです。</li> </ul>				

学校独自に設定する分野	サポートルームの活用	A	支援を行う教職員を増やしたり、教室環境の整備をしたりすることで、様々な子どもたちへの支援をさらに充実させていく。	A	A	
	スタートカリキュラムの本格的な運用	B	幼児期の学びを生かした教育活動を行うことで、新1年生が安心感を持ち、円滑に小学校生活に適用できるようにするとともに、主体的に学習に取り組むための素地を養う。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中の連携で子どもたちの学びに生かせる取組、とても素晴らしく、今後も続けてほしい。</li> <li>・サポートルームの活用を継続し、保護者や地域と一体になり支援していただきたいと思います。</li> <li>・スタートカリキュラムを地域も含めて役割分担をしながら実施していただきたいと思います。すごく素晴らしい取組だと感じます。</li> </ul>				